

ミハル・カニュカ ピアノ・トリオ・プロジェクト



©大杉隼平

ピアノ:伊藤 恵
(東京藝術大学教授)



ヴァイオリン:漆原朝子
(東京藝術大学教授)



チェロ:ミハル・カニュカ
(プラハの春国際音楽コンクール会長)
(プラハの春国際音楽祭芸術委員)

次回=2026年11月 実施予定

伊藤 恵(ピアノ)

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルク・モーツアルデウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラフ氏に師事。エビナール国際コンクール、J.S.バッハ国際音楽コンクール、ロン=ティボ国際音楽コンクールと数々のコンクールに入賞。1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン州立管と共に演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン、シンフォニカ、ランクフルト放送響(現hr響)、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響をはじめとする各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアーナ1~13」。

2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シユーベルト ピアノ作品集1~6」は1作ごとに注目を集め、第6集は

2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。2018年にリリースされた「ベートーヴェンピアノ作品集1」、最新盤の「ベートーヴェンピアノ作品集2」(フォンテック)は、いずれもレコード芸術特選盤を獲得。また、サイウ・キネン・フェステイバル松本、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加、武生国際音楽祭ではコンサートプロデューサーを務める。1999年から2006年までの8年シリーズではシューマンを、2008年から2015年4月までの新たな8年シリーズではシユーベルトを中心としたリサイタルを開催し好評を博した。2018年からはベートーヴェンを中心としたシリーズを開始。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。2018年ジュネーブ国際音楽コンクールの審査員も務めた。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

漆原朝子(ヴァイオリン)

東京藝術大学附属高等学校在学中に日本国際音楽コンクールで最年少優勝。ジュリアード音楽院卒業。1988年 NHK交響楽団定期公演でデビュー、ニューヨークでのリサイタル・デビューも絶賛を博す。マールボロ音楽祭でルドルフ・ゼレキン、リチャード・ゲード等と共に、ザルツブルク音楽祭などにも登場するなど欧米各地で活躍、また国内外のオーケストラとの共演も数多い。

2003年以後 シューマンとブームスのヴァイオリンソナタ全曲ライヴCDを相次いでリリースして極めて高い評価を得る。

2006年には、シューマン没後150周年を記念してヴァイオリンソナタ全曲演奏に加えて、大阪センチュリー交響楽団(現 日本センチュリー交響楽団) シューマン:交響曲全曲ツイクリスにおいて、遺作のヴァイオリン協奏曲を演奏して注目と賞賛を得る。

2008-09年にはベリー・スナイダー、ロータス・カルテットと共に『シユーベルト:ヴァイオリン作品全集』をレコーディング。

スナイダーとは長年にわたってデュオを組んでおり、2009年にオール・シユーベルト、2010年には生誕200周年記念 シューマン・プログラムなどテーマ性をもつたりサイタルツアーハウスをその後も行っている。また、2012-13年には東京と大阪でベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ全曲ツイクリスを行い、聴衆にひときわ深い感銘を与えた。英國人指揮者 ジョセフ・ウォルフとは、ライワードであるエルガー:ヴァイオリン協奏曲を度々共演しており、2017年兵庫芸術文化センター管定期演奏会(三公演)との共演はライヴレコーディングCDとしてリリースされて話題となり各方面より高評を得ている。平成26年度 文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。現在、東京藝術大学教授、大阪音楽大学特任教授。

ミハル・カニュカ(チェロ)

1960年プラハ生まれ。ミルコ・シュカンパの指導により7歳でチェロを始め、プラハ音楽院でザイタル・モウチカ(ザラフ弦楽四重奏団)の下で研鑽を積む。ヨセフ・フッフロ(スクートリオ)の下で学んだプラハ芸術アカデミー時代の1983・84年には、グレゴール・ピアティギルスキイ・セミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モーリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエラの指導を受けた。

1980年プラハの春国際音楽コンクールで名誉賞受賞。翌年、チェコスロバキア(当時)国内コンクールでグランプリを獲得。1982年チャイコフスキイ・コンクール、1983年プラハの春国際音楽コンクール(第1位)などで上位入賞を果たす。1986年にはミュンヘン国際音楽コンクールの勝者となつた(第1位なしの第2位)。

カニュカは、チェコ・フィル、プラハ放送響、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ローザンヌ室内管、プラハ室内管、プラハ室内フィルなどのトップ・オーケストラとも共演を重ね、リサイタルも世界各国で開いてきた。

また、ブルノ・フィルでは1995年以来定期的にソリストとして客演を続け、プラハ

放送響では2003年から指定ソリストとして活躍している。

その演奏は放送で度々紹介されていることはもちろん、CDも多数リリースしており、いずれのレコーディングも数々の受賞を得るなど極めて高く評価されている。室内楽分野でもその活動は精力的で、1976年にマルティヌー・カルテットを結成。1986年~2022年までプラジャーク・カルテットのメンバーとして、世界中の主要なコンサートホールに立ち、数々のCDを録音している。

2017年からはウイハン・カルテットのメンバー、さらに2019年からはターリヒ・カルテットのチェリストを務めている。

使用楽器はフランスの名工クリスチャン・バヨンによる2006年製で、同じくフランスのニコル・デュシェリュー2000年製の弓を使用している。

ミハル・カニュカは現在、プラハの春国際音楽コンクール会長、プラハの春国際音楽祭芸術委員、ボフスラフ・マルティヌー財団理事などの要職を務めており、まさにチェコを代表する音楽家として活躍している。

2024年11月 日本公演記録

ベートーヴェン:
ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 op.97 「大公」

チャイコフスキイ:
ピアノ三重奏曲 イ短調 op.50 「偉大な芸術家の思い出に」

11/14 愛知・常滑市 MiMi HALL

11/15 大阪・あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

11/18 東京文化会館 小ホール

制作協力:KAJIMOTO

お問い合わせ/コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733 / 090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp